

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道礼文高等学校	教育局	宗谷教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
礼文の魅力探究 ～地域の活性化へ～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年9名が、科目「社会と情報」において、礼文島PRムービーの制作を開始した。 ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、特産品を使った商品開発(穴あき貝を利用した製品)を行った。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、礼文町漁業士を講師として、包丁の研ぎ方の講習や地元の特産物を使用した創作料理をつくる実習を行った。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、「昆布ジュレ」を考案し、ハンバーグや麺類に合わせ使用した。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、昆布パウダー(乾燥昆布をそのままミキサーで細分したもの)をつくった。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学年の放送局員2名が、海外交流事業ムービー及び学校行事ムービーを制作した。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、昆布についての研究成果を全道フォーラムで発表した。 ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、クッキー生地に昆布パウダーを練り入れて昆布クッキーをつくった。また、昆布クッキーを学校祭等で取り扱えるよう利益の計算や依頼状の作成などの活動を行った。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年9名が、科目「高山植物」において、礼文町高山植物培養センターの村山誠治氏を講師として、レブンアツモリソウの保全活動に係る講義やレブンアツモリソウのプロトコムの移植実習を行った。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、フードオフィスホッカイドー代表の松田真枝氏を講師として、北海道の昆布についての講義や礼文島の昆布を用いた調理実習を行った。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年2名が、科目「生活産業基礎」において、昆布クッキーを改良するとともに、販売へ向けて商店と打合せを行った。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年9名が、科目「高山植物」において、1年間の学習のまとめとして観光パンフレットを作成する予定。

3 地域みらい連携会議の開催内容	
第 1 回	令和2年1月14日(火) 14:00~15:00
出席者	山田委員、本前委員、野間田委員、村上委員 教頭：長田、教諭：阿部、田中、須賀、保坂
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度OPENプロジェクト実施中間報告について ・礼文島の課題について ・礼文島の未利用素材を活用した教育活動について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業においては、水揚げされても廃棄となる海産物が少なくないため、かまぼこや魚醬、肥料などをつくるとよい。 ・生い茂った笹が、高山植物の生息地を狭めているため、笹の葉や茎を活用した商品や食品をつくるとよい。 ・観光シーズンには、ツアー客が飲食店に押し寄せてしまい、個人客が飲食できる場所が少なくなるため、礼文高校生がボランティアでオリジナル弁当を考案し、フェリーターミナルで販売するとよい。 ・冬季には、観光客が減少するため、礼文島でのウィンタースポーツや冬のトレッキングコースを考え、礼文島の冬季の祭を盛り上げるとよい。
4 研究の成果と課題	
(1) 目的の達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで校内行事として実施してきたボランティア活動を本プロジェクトの一環として実施し、教員と生徒が地域に深く関わることで、よりよい町づくりを進めようとする意識が高まった。 ○ 職場体験実習やボランティア活動などの体験から、生徒アンケートにおいて、「地域に支えられている実感がある」と回答した生徒が全体の90%となり、地域を学びの場とする意識を持たせることができた。 ○ 礼文島外から招いた講師による講話により、生徒は礼文島外からの視点による「島の魅力」を知ることができた。 ● 生徒が地域について興味・関心を持ち、自ら進んで地域に関わろうとする意欲をさらに向上させる必要がある。 	
(2) 目標の達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒アンケートにおいて、「地域の方々と共に考え行動したことにより、自分のコミュニケーション能力が高まったと思うか」という質問に対し、「思う」と回答した生徒は90%であった。 ● 生徒アンケートにおいて、「自分が礼文島の振興に関わっていることが実感できるか」という質問に対し、「実感できる」と回答した生徒は50%にとどまった。 ● 生徒アンケートにおいて、「卒業後も礼文島のために地域振興に関わっていきたいと思うか」という質問に対し、「思う」と回答した生徒は60%にとどまった。 	

(3) 実践研究の規模

- 理科、家庭科及び情報科を中心に、外部との連携し実施できた。特に、家庭科においては、外部の関係者と連携を密にし、地域の特色を生かした料理の開発や研究を生徒主体で実践することができた。
- 家庭科において、活用できていない地域の素材を生かす方法を探究する必要がある。

(4) 研究成果の普及

- 毎月、礼高便り（学校便り）を発行し、保護者や地域の関係機関への配布や学校ウェブページに掲載することで、実践内容や成果を広く地域に広報することができた。
- 地域みらい連携会議を通して、新しい地域ネットワークを構築することができた。
- 本プロジェクトの具体的な取組について、学校ウェブページに定期的に掲載する必要がある。

(5) 実践研究内容

- 科目「情報処理」において、礼文島の魅力を伝える礼文島PRムービーを作成するための技術を身に付けることができた。
- 科目「情報処理」において、礼文島PRムービーの作成に係る企画や構成、撮影などを生徒主体で実施する必要がある。
- 科目「生活産業基礎」において、地域の資源を活用し、新メニューを開発することができた。
- 科目「生活産業基礎」において、開発した新メニューを地域に還元する方法を検討する必要がある。
- 科目「高山植物」において、レブンアツモリソウの培養実験を行うなど、環境保全活動に関わることで、環境保全の視点から持続可能な町づくりの重要性を理解することができた。
- 科目「高山植物」において、観光客へのガイド活動を通して、礼文島の自然について理解を深めることができた。
- 科目「高山植物」において、生徒が野外実習の様子をビデオに録画し、礼文島PRムービーに活用することを検討する必要がある。

(6) 地域みらい連携会議

- 礼文島の実態に応じた取組についての助言を得ることができた。
- 学校の要望に対して、海産物の提供や講師の派遣など、手厚いサポートを受けることができた。
- 実践研究の進捗状況や内容などを踏まえ、会議の開催時期や開催場所を柔軟に設定する必要がある。

5 プロジェクトの達成状況	
(1) 【評価の観点】 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について	
<p>(評価)</p> <p>学校全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。</p>	
<p>(評価した理由)</p> <p>生徒アンケートの結果により、将来礼文島で飲食店を開こうと考えている生徒や、漁業組合や観光協会等に勤務しようと考えている生徒にとって有意義な活動ができたと評価できるため。</p>	
(2) 【評価の観点】 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について	
<p>(評価)</p> <p>地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。</p>	
<p>(評価した理由)</p> <p>地域みらい連携会議を通して、礼文町内の関係機関と連携した充実した教育活動を行うことができたため。</p>	
(3) 【評価の観点】 生徒の主体性について	
<p>(評価)</p> <p>生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。</p>	
<p>(理由)</p> <p>生徒は「地域社会の一員」とまでは言えないが、礼文高校の一員として主体的にプロジェクトの目標の達成に向け活動しているため。</p>	
(4) 【評価の観点】 地域課題の解決状況について	
<p>(評価)</p> <p>地域課題を把握し、取り組んだだけにとどまっている。</p>	
<p>(理由)</p> <p>課題の解決につながる活動は始めているが、目に見える成果は出せていないため。長期的な活動とモニタリングが必要であると考えます。</p>	
6 今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドや礼文高校オリジナル弁当、昆布クッキーの販売など、本プログラムの中で生徒がつくった製品や身に付けた知識・技能を地域に還元できるような取組としたい。 ・笹や山菜、海産廃棄物など礼文島で活用されていない資源を活用したい。 ・生徒の商品アイデアなどを実現し利益となるよう、地域の工場や商店との連携を図りたい。 ・観光地の案内や開発した商品の販売など、礼文島の魅力を外部に発信する活動を生徒主体で実施し、高校生が中心となって礼文町を盛り上げることができる機会をつくりたい。 	

7 参考資料

(1) 1 学年 科目「高山植物」 外来植物の除去活動の様子



- ・ 礼文島自然情報センターのスタッフの協力のもと、外来植物を除去し、礼文島の高山植物を保護する活動を行った。

(2) 2 学年 科目「生活産業基礎」 包丁の研ぎ方講習と創作料理をつくる実習の様子



- ・ 礼文町漁業士による包丁の研ぎ方の講習を行った。また、礼文島産の昆布や魚を使った創作料理をつくった。

(3) 2 学年 科目「日本史 B」 浜中 2 遺跡を見学する様子



- ・ 北海道大学の研究チームとともに、縄文時代の遺跡である浜中 2 遺跡を見学した。生徒は、礼文島には花や海産物以外にも魅力的なものがあることを知ることができた。

(4) 2 学年 科目「生活産業基礎」 料理コンクールに出品するメニューを考案する様子



- ・ 料理コンクールに出品する料理を考案し、試作した。

(5) 1 学年 科目「高山植物」 レブニアツモリソウの培養実習の様子



- ・ 礼文町高山植物培養センターから講師を招き、絶滅危惧種である礼文島の固有種レブニアツモリソウの細胞塊を培養する実習を行うとともに、レブニアツモリソウの生活史に関する講義を実施した。培養されたレブニアツモリソウは2年ほどかけて芽を伸ばし、高山植物培養センターの花壇に植え替えられる予定である。

(6) 全学年 家庭科における昆布についての講義と調理実習の様子



- ・ フードオフィスホッカイドー代表により、北海道の昆布についての講義と礼文島の昆布を用いた調理実習を行った。
- ・ 出汁をとる以外にも昆布そのものの美味しさを味わうことができた。

(7) 1・2 学年 科目「家庭総合」 ボランティア弁当をつくる様子



- ・ 毎年実施している、礼文町内のお年寄りにお弁当を手作りして配付し、一緒に食事する活動を行った。健康面や好みの味に配慮し、礼文でとれた鮭などの材料を使い試作を重ねて完成させることができた。